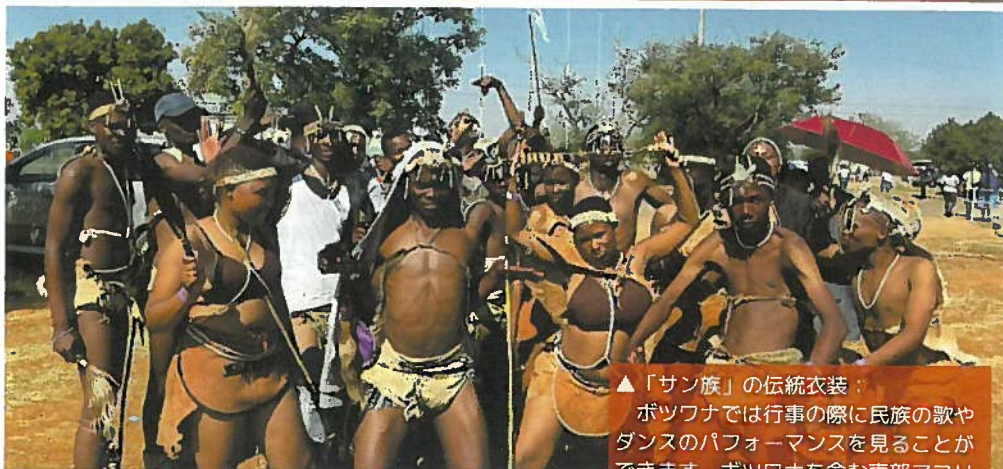




ボツワナだより



▲「サン族」の伝統衣装：

ボツワナでは行事の際に民族の歌やダンスのパフォーマンスを見ることができます。ボツワナを含む南部アフリカには数多くの民族が存在します。写真の衣装は狩猟採集民「サン族」の衣装を模したもので、ダンスも力強く躍動的でした。ただしこのような人たちは、必ずしもその民族出身というわけではなく、仕事として踊る「ビジネス民族」であることも多いそうです。

ボツワナ独立への道のり

19世紀後半、ヨーロッパ諸国がアフリカを分割していた頃、現在のボツワナにはベチュアナランドという王国がありましたが、資源の乏しさ、厳しい風土等により獲得対象にはなりませんでした。

第一次世界大戦の間、南アフリカではオランダ系移民のアフリカーナーがアパルトヘイト（人種隔離政策）を推進しており、この政策は周辺国にも広がっていました（ネルソン・マンデラの大統領就任まで50年近く継続）。ボツワナも南アフリカに併合されそうになりますが、兵役や税金の提供を通して良い関係を築いていたイギリスの保護を得ます。

1948年、ベチュアナランドの王位継承者であったセレツェ・カーマがイギリス人女性と結婚。周辺国は黒人が白人と結婚したことに怒り、カーマが王になることに反対。カーマは王位継承を諦めますが、白人入植者追放等を掲げる政党を結成し、全面的な支持を得ました。

1966年9月30日、ボツワナ共和国が成立。イギリスがカーマの手腕を認めたことだったようです。独立を果たしても不毛の地であることに変わりはなく、最貧国10カ国のうちの1つでした。しかし1967年、ボツワナは世界最大のダイヤモンド鉱山を発見し、アフリカの優等生と呼ばれるまでに成長しました。カーマはダイヤモンドで得た利益の大半を初等教育と国内産業の育成に費やしました。もしも鉱山の発見が独立前であったら、今のボツワナはなかったかもしれません。

独立の歴史が現代の国民性にも影響



大國に翻弄されながらも戦地にはならず、国内紛争もほぼなかったボツワナでは、平和と民主主義が重んじられています。以前紹介した国旗にも、黒人と白人が手を取り合う様子が表されています。初代大統領セレツェ・カーマの願いが込められていたのでしょう。

▲3首長の像：独立に貢献した3人。首都中心部で見ることができる。



▲大多数を占めるツワナ族の衣装：

式典や結婚式の際にもこの衣装がよく見られます。他にも上記のサン族を含む10以上の少数民族があり、それぞれが出身民族の衣装を着用します。当然言語も異なり、国内で話される言語は28にも上ります。公用語である英語やツワナ語が通じない民族もいます。

Surprising Facts of Botswana

[No. 1] 元気いっぱい小学生！



11月、ようやく教師としての仕事を開始できました。初日、小学生達は私を見て駆け寄ってきて、ストレートの髪や白い肌を触ったり日本語を教えてと言ってきたり、大興奮でした。授業中も質問が飛び交い、日本から持って来た写真を見せると、最前列の取り合いで喧嘩になる程でした。

学校は7:30開始ですが、その前に登校し、朝の給食(パン等)を食べます。11:00に昼の給食(豆や茹で卵等)が支給され、13:00頃放課になります。

[No. 2] 小学校で美女コン！？



ボツワナの年度は1月始まり12月終わりです。年度末の試験後、校庭に何やら人だかりが。ステージではドレスアップした女の子たちがポーズしていました。美女コンテストです。

私は小学生が肌が露出したり容姿を競ったりすることに少し抵抗がありましたが、みんな一生懸命練習し、本人達も観客達もとても楽しそうでした。また奮闘料として集めたお金は、入賞者への景品の他、経済的に恵まれない生徒達への寄付に使われるそうです。

[No. 3] 気になる芋虫の味は？

日本でも注目されつつある昆虫食ですが、ボツワナでは「パニ」という蛾の幼虫が日常的に食されています。今はシーズン真っ只中で、市場で乾燥パニが置り売りされていたり、同僚がスナック菓子のようにポリポリつまんでいたります。私も同僚に促され、恐る恐る食べてみました！



塩茹でされた後パリパリに乾燥されているので、おつまみのナッツに近い味と食感で、臭みはほとんどありませんでした！水で戻してトマトなどと煮込む料理もあるそうです。

[No. 4] フレイドヘアーに挑戦！

前回紹介したフレイドヘアーに、私も挑戦しました！エクステを地毛に編み込んでいくだけなので、1日でロングヘアー(しかも好みの色)が手に入ります！シャンプーができないので、2週間だけ楽しんで取り外しました。乾燥したボツワナでは温気が不快になることなく扱いやすいので、また別の髪型・色にも挑戦したいです！



パープルです！

静かなハロウィーンと暖かいクリスマス

ー半袖で過ごすクリスマスー



イギリスの影響でキリスト教がボツワナに広まり、今では8割以上の方がキリスト教であるそうです。そのため、夏であつてもクリスマスを祝います。街中をライトアップするような派手さはありませんが、ショッピングモールなどではクリスマスツリーやデコレーションが見られます。当日は故郷へ帰り、家族と山羊の丸焼きなどを食べるそうです。

ーハロウィーンは祝わない？ー

ボツワナの10月31日は静かに過ぎ去ります。これにはイギリスとハロウィーンとの関係が影響しています。

キリスト教誕生前の古代アイルランドやスコットランド(=イギリス北部)で「この日に先祖が帰って来るのと一緒に悪霊も付いて来る」との言い伝えからハロウィーンが始まり、魔除けの意味で恐ろしい仮装をするようになったとか。当初はカブを被っていたのが、アメリカに伝わった際カボチャに変わったそうです。

ところが現在のイギリスでは11月5日により重要な祝日があるため、キリスト教と関係のないハロウィーンは盛り上がり欠け、アメリカや他国のとの温度差を感じるほどです。日本では東京ディズニーランドがイベントをした1997年頃から親しまれるようになったそうです。

ーキリスト教会へ行ってみたいー



多くのボツワナ人が毎週末教会に行きます。私も付いて行ったのですが9:00~16:00、ご飯も食べずに説法を聞いたりダンスをしたりして、とっても疲れました。「日本人は教会やお祈りへは行かない」と言うと、「何を信じて生きているの!？」と言われました。また仏教なのにクリスマスも祝うし、結婚式も教会ですると言うので、更に驚かれます。